

# 平成 1 5 年度 病害虫発生予報 第 7 号

平成 1 5 年 7 月 3 1 日  
発表：福島県病害虫防除所

主要病害虫の発生状況と発生予想（ 多 やや多 並 やや少 ・少 - 対象外）

作物名	病害虫名	発生状況 ( 平 年 比 )				予想発生量 ( 平 年 比 )				備 考
		県北	県南	会津	浜	県北	県南	会津	浜	
水 稲	いもち病 ( 穂いもち ) 紋枯病 稲こうじ病 コメイチュウ ツグノコバエ セシロウカ 斑点米かみシ類 イネツトムシ	-	-	-	-					
ダイズ	ハスモンヨトウ									
リンゴ	斑点落葉病 褐斑病 ワシノボリガ				-				-	
モモ	灰星病		-	-	-	-	-	-		
ナシ	黒星病 黒斑病			-	-		-			
果樹共通	カメムシ類 ハダニ類	・	・	・						
キュウリ ( 夏秋露地 )	べと病 うどんこ病 炭疽病 褐斑病				-				-	
トマト ( 夏秋被覆 )	葉かび病 灰色かび病 ワシツコジラミ	-			-	-			-	
アスパラガス	茎枯病	-	-		-	-	-		-	
キク	白さび病 アザミウマ類									
リンドウ	葉枯病	-	-		-	-	-		-	
野菜・花き 共 通	ハダニ類 オオタバコガ									

予報の根拠の中で（＋）は多発要因、（－）は少発要因、（±）は並発生要因であることを示す。

## 発生予報と防除対策

### A 普通作物

イネいもち病（穂いもち）	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期	並			やや遅
	発 生 量	やや多			

注意報第2号イネいもち病（穂いもち）が7月25日、県下全域を対象に発表されました。

#### 1 予報の根拠

7月中旬の巡回調査の結果、県内全域で葉いもちの発生が確認され、一部のほ場で「ずりこみ症状」がみられた。今後、葉いもちの上位葉での発生、発生面積の拡大が懸念される。

現在までの気象経過は、いもち病が多発した過去の冷害年に酷似している。

天候予報（7月25日発表）の1ヶ月予報によると、向こう1ヶ月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されている（+）。

低温、日照不足により稲体が軟弱化し、いもち病に対する抵抗力が弱まっている。今後気温の上昇に伴い、稲体の葉いもちに対する感受性が高まると予想される（+）。

#### 2 防除上注意すべき事項

現在、葉いもちの発生が見られるほ場では、直ちに散布剤（液剤、粉剤等）による防除を実施して、上位葉での病斑の発生、増加を防ぐ（表3）。

葉いもちの予防剤（箱粒剤または水面施用剤）を使用した場合でも、ほ場をよく観察し、葉いもちの発生がみられる場合には、散布剤（液剤、粉剤）による追加防除を実施する。

穂いもちを対象に散布剤を使用する場合は、穂ばらみ末期と穂揃期の2回の薬剤散布が必須であるが、止葉及び次葉に病斑が多く見られる場合には、傾穂期の薬剤散布を追加する。

イネ紋枯病	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期	並			
	発 生 量	並			

#### 1 予報の根拠

初発生の時期、程度はほぼ平年並みであった。

稲の茎数は、平年並からやや多い（+）。

去年の発生はやや少なかった（-）。

天候予報によると、向こう1か月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か多いと予想されている（±）。

#### 2 防除上注意すべき事項

早期発見につとめ、穂ばらみ期に株率で15%以上の発生が見られる場合は、薬剤散布を実施する。

イネ稲こうじ病	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや多			

#### 1 予報の根拠

天候予報によると、向こう1か月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か多いと予想されている（+）。

日照不足により稲体は軟弱気味である（+）。

#### 2 防除上注意すべき事項

出穂10日前～穂揃期の間に薬剤による予防散布を実施する。ただし、銅粉剤

は出穂10日前までに散布する。

ニカメイチュウ (第2世代幼虫)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期	並			
	発 生 量	やや少	並(平年並に少ない)		

- 1 予報の根拠  
県北地方のフェロモントラップでの第一世代成虫の誘殺数はやや少なかった(-)。
- 2 防除上注意すべき事項  
6～7月に葉鞘変色茎の発生が多かったほ場では、薬剤散布を実施する。

ツマグロヨコバイ	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや少			

- 1 予報の根拠  
予察灯での誘殺数は平年より少ない(-)。  
天候予報によると、向こう1か月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か多いと予想されている(-)。
- 2 防除上注意すべき事項  
発生が多い場合には、薬剤散布を実施する。

セジロウンカ	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや多			

- 1 予報の根拠  
予察灯での誘殺数は平年より多い(+)  
県内各地の水田内ですくい取られた(+)  
天候予報によると、向こう1か月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か多いと予想されている(-)。
- 2 防除上注意すべき事項  
水田内の発生状況をよく観察し発生が目立つ場合は、薬剤散布を行う。

斑点米カメムシ類	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや多			

- 1 予報の根拠  
7月4～5半旬の畦畔雑草のすくい取り調査によると、発生の多かった昨年と同様に多くすくい取られた(+)  
クモヘリカメムシは浜通りで7月4半旬にすくい取られた。すくい取り数は少なかった(-)。一方、アカスジカスミカメのすくい取り数は多かった(+)  
予察灯でのアカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺数は、平年並で昨年より少なかった(±)。  
天候予報によると、向こう1か月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か多いと予想されている(-)。
- 2 防除上注意すべき事項  
出穂直前に畦畔雑草等を取り除くと、カメムシ類を水田に追い込む結果となるので、除草は出穂10日前までには終了する。  
出穂期からカメムシの発生が見られた場合は乳熟期に薬剤を散布する。

イネツトムシ	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや多			

- 1 予報の根拠  
7月上旬の巡回調査で、発生の多かった昨年と同程度の発生が確認された(+)

## 2 防除上注意すべき事項

水田内で幼虫の発生が見られる場合は、若齢幼虫の内に薬剤散布を行う。

直播栽培、冠水した水田等では、生育が遅れ、葉色が濃い場合があるので、発生には十分注意する。

ハスモンヨトウ(ダイズ)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期	やや早			
	発 生 量	並			やや多

### 1 予報の根拠

浜通りのフェロモントラップでの誘殺数は7月1半旬に多かった(+)。

### 2 防除上注意すべき事項

防除の実施にあたっては、県病虫害防除情報ファビイ24号を参照する。

その他病虫害の発生動向と防除対策

イネ葉しょう褐変病

葉しょう褐変病は穂ばらみ期から出穂にかけて低温に遭遇すると発生しやすくなるので発生動向に注意する。

変色米

変色米は出穂期以降に降雨が続くと発生しやすくなるので、常発地では本病に効果のある薬剤でいもち病との同時防除を行う。

## B 果 樹

発生予報と防除対策

リンゴ斑点落葉病	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並			-

### 1 予報の根拠

巡回調査の結果、いずれの地方とも6月の調査時より発病葉率は急激に高くなったが、新梢での発生量は会津地方を除き、平年よりやや少なかった(-)。

天候予報によると、向こう1か月の気温は平年並か低く、降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込みである(+)

### 2 防除上注意すべき事項

本病は、20 以上で、2日以上 of 降雨が続くと急激に増加するので、今後の天候の推移に注意する。

新梢の上位葉や徒長枝葉など組織が柔らかい葉に発生しやすいので、胴ぶき枝など不要な徒長枝をせん除し、樹全体に薬液が十分かかるように散布するとともに、散布間隔を10日以上あけないようにする。

リンゴ褐斑病	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや少	並		-

### 1 予報の根拠

巡回調査の結果、発生量は県北地方でやや少(-)、県南地方と会津地方で平年並であった(±)。

向こう1か月の気温は、平年並か低く、降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込みである(+)

### 2 防除上注意すべき事項

低温多雨で発生が多くなるので、今後の気象状況に注意する。

薬剤は二次伝染が盛んになる前の 8月上旬までにベンレート水和剤またはトップジンM水和剤を散布する。

キンモンホソガ (リンゴ)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並	やや少	並	-

1 予報の根拠

巡回調査の結果、県北地方のごく一部の園地で被害葉率、被害ほ場割合が高かったが、県南地方の発生量はやや少なかった（-）。

2 防除上注意すべき事項

多発園では本害虫に対し有効な、I G R 剤またはネオニコチノイド剤を適切に散布する。

モモ灰星病	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並	-	-	-

1 予報の根拠

巡回調査の結果、果実発病は福島市で平年並、伊達郡では発生を確認できなかった（-）。

天候予報によると、向こう 1 か月の気温は平年並か低く、降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込みであり、本病の感染および発病にとって好適な条件である（+）。

2 防除上注意すべき事項

収穫20日前頃になると果実は感染しやすくなるので、7～10日間隔で3～4回、本病に有効な薬剤を十分量散布する。また、薬剤耐性が懸念される E B I 剤や、ジカルボキシミド系殺菌剤は、連用や多用を避け、使用回数や収穫前の使用時期を守るとともに、計画的にローテーションを組み散布する。

収穫期が低温多湿条件に経過し収穫期間が長びくようであれば、収穫期間中でも適切な薬剤（収穫前日数が前日までの薬剤）を1回散布する。

発病果は二次感染の原因となるので処分するとともに、発病果の着果した枝は次年度の感染源となるのでせん除する。

ナシ黒星病	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並	やや多	-	並

1 予報の根拠

巡回調査の結果、新梢葉での発生量は県北、浜通り地方で平年より少～やや少（-）であった。県南地方では一部園で多発していたものの、その他の園地ではやや少なかった（-）。

果実における発生量は、県北、浜通り地方では平年より少～やや少で、発生ほ場割合もやや低かった（-）。県南地方における果実での発生量は平年並であったが、発生ほ場割合は平年より高かった（+）。

天候予報によると、向こう 1 か月の気温は平年並か低く、降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込みであり、本病の感染および発病にとって好適な条件である（+）。

2 防除上注意すべき事項

罹病葉及び果実は伝染源となるので、見つけしだい摘除し土中に埋めるか園外へ持ち出して適切に処理する。

梅雨明けが遅れる場合には、輪紋病との同時防除を兼ね、アミスター10フロアブルまたはストロビードライフフロアブルを散布する。ただし、薬剤の使用回数制限に注意する。

カメムシ類（リンゴ・モモ・ナシ）	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや少			

1 予報の根拠

7月の低温により第1世代の発生は抑制されており、今後、増殖の可能性は低い（-）。

フェロモントラップおよび予察灯における誘殺数は、各地方とも少なかったが（-）、いわき市の一部ナシ園では多発年であった2001年に比べ少なかったものの、園地への飛来、果実への寄生が認められた。

2 防除上注意すべき事項

浜通り南地方（いわき市）や、各地方の山沿いの園地などで飛来が確認される場合には、使用時期（収穫前日数）など農薬使用基準や合成ピレスロイド系殺虫剤等の使用上の注意事項を厳守し、薬剤散布を行う。

ハダニ類（リンゴ・モモ・ナシ）	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや少	並	並	やや少

1 予報の根拠

巡回調査の結果、県南および会津地方で発生が認められたものの（±）、他の地方では全般に発生が少なかった。

向こう1か月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か多いと見込まれる（-）。

2 防除上注意すべき事項

胸ぶき葉や徒長枝葉などはハダニ類の増殖源となり、薬剤のかかりを悪くするので、主枝部の日焼けを引き起さない程度にせん除する。

ダニの種類及び生育ステージに効果の高い薬剤を選択し散布する。また、薬液は十分量散布し、掛けむらのないよう留意する。また収穫が間近の樹種および品種では、使用時期に注意し散布する。なお、詳しくは「ファピィ」情報番号36番参照する。

その他病害虫の発生動向と防除対策

リンゴ・ナシ輪紋病

本病は高温を好むが、平均気温が20℃以上で降雨があると感染が助長される。梅雨明けが遅れる場合、リンゴでは散布間隔を7～10日間隔とする。ナシでは8月上旬頃にオーソサイド水和剤80（1000倍）を散布する。

モモホモブシス腐敗病

本病は高温多湿条件で感染が助長される。今後もしも不順天候が続くようであれば、晩生種を対象に、また、中生種の収穫期間でも灰星病との同時防除を兼ね、ベルコート水和剤（収穫前日まで）またはダコレート水和剤（収穫3日前まで）またはダコレックス水和剤（収穫3日前まで）を散布する。なお、使用時期および回数に注意して散布する。また、枯死した枝は感染源になる恐れがあるので、随時見つけしだいせん除する。

シンクイムシ類（リンゴ、モモ、ナシ）

シンクイムシ類の発生が多い場合には、ネオニコチノイド剤を適期に散布する。ただし、殺虫剤を選択する際、収穫前日数に十分注意する。なお、ナシヒメシンクイの第3世代幼虫ふ化盛期は、8月1半旬～2半旬頃（県北地方北部平坦）と推定される。

## C 野 菜

キュウリべと病 (夏秋露地)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜 通 り
	発 生 量	やや多			-

- 1 予報の根拠  
7月下旬の巡回調査では、全てのほ場で発生が認められ、発病葉率が50%を超えるほ場が散見された(+)。  
天候予報によると、向こう1ヶ月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か多い見込みである(+)。
- 2 防除上注意すべき事項  
本病は、気温が20～24℃で多湿または降雨により発生が増加するので発生初期より防除を徹底する。  
防除対策については、「ファピィ」情報番号41番を参照する。

キュウリうどんこ病 (夏秋露地)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜 通 り
	発 生 量	やや多			-

- 1 予報の根拠  
7月下旬の巡回調査では、ほとんどのほ場で発生が認められ、発病葉率が50%を超えるほ場が散見された(+)。
- 2 防除上注意すべき事項  
本病は、多湿の場合でも発生が増加するので注意する。  
薬剤散布にあたっては、薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しないように注意する。  
防除対策については、「ファピィ」情報番号41番を参照する。

キュウリ褐斑病 (夏秋露地)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜 通 り
	発 生 量	やや多			-

- 1 予報の根拠  
7月下旬の巡回調査では、県内各地の約7割のほ場で発生が認められ、過去4年と比較して発生ほ場率がやや高かった(+)。  
天候予報によると、向こう1ヶ月の降水量は平年並か多い見込みである(+)。
- 2 防除上注意すべき事項  
本病は、降雨が連続すると多発するので発生初期より防除を徹底する。  
本病は、草勢が低下すると発病しやすくなるので、肥培管理には十分注意する。  
防除対策については、「ファピィ」情報番号41番を参照する。

トマト葉かび病 (夏秋被覆)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜 通 り
	発 生 量	-	やや多	並	-

- 1 予報の根拠  
7月下旬の巡回調査では、県内各地のほとんどのほ場で発生が認められ、会津では平年並であったが(±)、県南では発生ほ場率及び発病株率がやや高かった(+)。  
天候予報によると、向こう1ヶ月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か多い見込みである(+)。
- 2 防除上注意すべき事項  
本病は、20～25℃の温度と95%以上の多湿条件で増加するので、換気を十分行う。多発後の防除は困難なので発生 of 極く初期より薬剤防除を行う。  
薬剤散布にあたっては、耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しないように注意する。  
防除対策については、「ファピィ」情報番号42番を参照する。

トマト灰色かび病 (夏秋被覆)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	-	やや多		-

1 予報の根拠

7月下旬の巡回調査では、県内各地のほとんどのほ場で発生が認められ、発生ほ場率及び発生程度がやや高かった(+)。

天候予報によると、向こう1ヶ月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か多い見込みである(+)。

2 防除上注意すべき事項

本病は、20程度の温度と多湿条件で発生が多くなるので、換気を十分行い、発生初期より防除を行う。

薬剤散布にあたっては、薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しないように注意する。

防除対策については、「ファピィ」情報番号42番を参照する。

ワツコナヅミ(トマト)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
(夏秋被覆)	発 生 量	-	やや多	並	-

1 予報の根拠

7月下旬の巡回調査では、県内各地で寄生が認められ、特に県南では寄生程度がやや高く(+)、会津では平年並であった(±)。

2 防除上注意すべき事項

薬剤散布にあたっては、薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しないように注意する。

防除対策については、「ファピィ」情報番号42番を参照する。

リンドウ葉枯病	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	-		やや多	-

1 予報の根拠

7月上旬の巡回調査によると、発病茎率が例年と比較してやや高く、しかも一部で発病茎率の高いほ場が認められた(+)。

天候予報によると、向こう1ヶ月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か多い見込みである(+)。

2 防除上注意すべき事項

薬剤散布にあたっては、薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しないように注意する。

防除対策については、「ファピィ」情報番号62番を参照する。

ハダニ類 (モリ、ナ、サイゲン、 キ、リンドウ)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜 通 り
	発 生 量	並			

1 予報の根拠

7月の巡回調査では、発生ほ場率がやや高かったが、寄生葉率は平年並であった(±)。

2 防除上注意すべき事項

今後、気温の上昇に伴い寄生数が増加するので、低密度時から防除を行う。  
防除対策については、下記の通り。

作目名	ファピィ(情報番号)
キュウリ	4 1
ナス	4 9
サイインゲン	4 6
キク	6 1
リンドウ	6 2



オオタバコガ (トマト、キク)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜 通 り
	発 生 量	並			

# 1 予報の根拠

7月下旬の巡回調査では、県南及び会津のトマトほ場で寄生が確認され、頂芽での加害が認められた。キクでは、いわきで被害花が認められたが、発生ほ場率は平年並であった(±)。

# 2 防除上注意すべき事項

防除対策については、下記の通り。

作目名	ファビィ(情報番号)
トマト	6 4
キク	6 4

## その他病害虫の発生動向と防除対策

### キュウリつる枯病

7月下旬の巡回調査では、中通りのほとんどのほ場で発生し、葉及び茎で病斑が認められ、一部ほ場では発病茎率が25%を超えていた。

本病は、気温が20～24、多湿の場合発生が多くなり、まん延しやすい。向こう1ヶ月の天候予報によると、気温は平年並か低く、降水量は平年並か多いと予想されており、今後の発生動向に注意する必要がある。

発生前から防除を行い、予防散布を徹底する。また、被害株は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

### キュウリホモブシス根腐病

県南地方の露地栽培ほ場で発生が確認された。県内では平成8年に促成栽培において、そして平成13、14年には露地夏秋栽培でも発生が確認されている。連作によって、本病原菌密度が高まっていることと、発病に好適な地温20～25の条件が続いていることが原因と思われる。

本病は、晴れた日中には萎ちようするが朝夕や曇雨天時に回復する状態を繰り返し、下葉から黄変して枯れあがる。時には地際の胚軸が水浸上に褐変腐敗、枯死する。主根及び支根は部分的に淡褐色ないし褐色となる。病気が進行すると褐変した根上に黒色の菌糸塊を生じ、これが診断する上でのポイントとなる。

## 天候予報

向こう1ヶ月(平成15年7月25日仙台管区气象台発表)の気温は平年並か低く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か多い見込みです。

## お 知 ら せ

昨年、無登録農薬が全国的に流通し、使用されている実態が明らかとなり、国民の「食」に対する信頼を損なう大きな問題となりました。

このため、昨年12月に農薬取締法が改正され、3月10日からこの改正法が施行されました。

主な改正点は、無登録農薬の製造、輸入、使用の禁止(販売は従来から禁止)、農薬使用基準に違反する農薬使用の禁止、罰則の強化などであり、農薬を製造・輸入・販売・使用するすべての国民に関係する内容です。

農家だけでなく、家庭菜園や花壇や芝の手入れをする方であっても、農林水産省の登録番号のある安全性の確認された農薬を、ラベルをよく読んで使うことが必要です。

無登録農薬はみんなで排除しましょう。

詳しい農薬情報は、農林水産省ホームページ(<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>)の「農薬コ-ナ-」をご覧ください。

# 病害虫防除情報ファクスサービス「ファピィ」

情報分類	情報発表日	情報番号	情報提供機関
総合案内	2003年 7月31日	0-0307-09	福島県病害虫防除所
情報タイトル			枚数
病害虫防除情報ファクスサービス「ファピィ」の総合案内			1
情報の種類と情報番号			作物名
			共通

情報の種類	番号	発表日	情報の内容	枚数
総合案内	0	7月31日	情報の種類、内容、発表日を示す	1
発生予察情報			(本県で発表した最新の発生予察情報など)	
定期予報	1 0	7月31日	平成15年度発生予報第7号	9
注意報	1 3	6月 6日	平成15年度発生予察注意報第1号	1
注意報	1 4	7月25日	平成15年度発生予察注意報第2号	3
防除情報			(病害虫の具体的発生データや防除対策など)	
水 稲	2 1	7月 4日	紋枯病の早期発見と防除対策	1
"	2 2	7月15日	葉いもちの発生状況と防除対策	3
"	2 3	7月16日	イチモンジセセリ(イタムシ)の発生状況と防除対策	1
大 豆	2 4	7月16日	ハスモンヨトウの発生状況と防除対策	1
水 稲	2 5	7月29日	稲こうじ病の防除対策	1
"	2 6	7月31日	斑点米カメムシ類の発生状況と防除対策	2
果 樹	3 0	6月27日	果樹病害虫総合(6/27発表の情報をまとめてあります)	2
"	3 1	6月 6日	リンゴ腐らん病の防除対策	2
"	3 3	6月27日	ナシのクワコナカイガラムシの発生状況と防除対策	1
"	3 6	7月31日	ハダニ類の発生状況と防除対策	1
野 菜	4 1	7月31日	夏秋キュウリ(露地)の病害虫発生状況と防除対策	3
"	4 2	7月31日	夏秋トマトにおける病害虫の発生状況と防除対策	3
"	4 6	7月18日	サヤインゲンにおける病害虫の発生状況と防除対策	1
"	4 9	7月16日	夏秋ナスにおける病害虫の発生状況と防除対策	1
"	5 0	5月29日	冬春キュウリ(施設)の病害虫の発生状況と防除対策	2
花 き	6 1	7月31日	キクにおける病害虫の発生状況と防除対策	2
"	6 2	7月18日	リンドウの病害虫の発生状況と防除対策	1
その他	6 3	4月28日	キュウリホモプシス根腐病の発生状況と防除対策	1
"	6 4	7月31日	オオタバコガの発生状況と防除対策	1
"	6 5	7月16日	ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数	1
農 薬	7 1	7月 7日	平成15年1月～6月に登録が失効した農薬	5
"	7 2	3月14日	農薬取締法の改正について	1
"	7 3	3月14日	農薬取締法第11条について	1
"	7 4	3月14日	農薬取締法第12条について	3
"	7 8	6月 6日	展着剤の使用について	1
"	7 9	6月10日	農薬危害防止運動	3
BLASTAM	8 0	火、金曜	イネいもち病(葉いもち)感染好適条件出現状況	1
"	8 5	6月24日	BLASTAMの判定基準と留意点	1
気象情報	9 0	金曜夕方	金曜発表の1ヶ月予報、金曜発表の週間予報	2

は最新の情報であることを、 はこれまでに発表した情報であることを示しています

## FAX の操作方法

お手元のFAXから「024(923)2010」に電話する。

ダイヤル回線の場合のみ「トーン(\*)」または「PB」ボタンを1回押す(入力信号をブッシュ信号に切り替える。ただし機種によって切り替えボタンが異なりますので、FAXの取り扱い説明書を参照ください)。

音声案内に従い<sup>注1)</sup>、取り出したい情報番号<sup>注2)</sup>に続けて、「シャープ(#)」を押す。

「ビー」の音がしてから、通信ボタン(「受信」や「スタート」ボタンなど)を押す。受話器を置く。

注1) 音声案内中でも、情報番号の入力はできます。

注2) 情報番号がわからない場合でも、FAXの通信ボタンを押すだけで、総合案内の情報を取り出せます。

## お 知 ら せ

3月10日から改正農薬取締法が施行されました。主な改正点は、無登録農薬の製造、輸入、使用の禁止(無登録農薬の販売は従来から禁止)、農薬使用基準に違反する農薬使用の禁止、罰則の強化などです。農薬は農林水産省の登録番号のあるものを、ラベルをよく読んで使いましょう。詳しい農薬情報は、農林水産省ホームページ(<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>)の「農薬コナ」をご覧ください。

情報内容への質問や要望は病害虫防除所までご連絡ください。

TEL: 024-938-4242 FAX: 024-923-2012 e-mail: kfsm0301@sp.jppn.ne.jp

病害虫防除情報は、ファクスサービス(FAX: 024-923-2010)で取り出せます。また病害虫防除所ホームページ(アドレス <http://www.aff.pref.fukushima.jp/fappi/index/html>)でも見ることが出来ます。